様式第７号（第８条関係）

２０２４年 １ 月 25 日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 日本共産党三鷹市議会議員団　代表者名 大 城 美 幸

１ 視察年月日	2024 年 1月 17日（ 水 ） ～ 2024 年 1月 18 日（ 木 ） （ 1 泊 2 日）
２ 視察者氏名	大城 美幸　栗原 けんじ　前田 まい 紫野 あすか 計 4 人
３ 視察先及び視察項目	（1） 兵 庫　都・道・府・(県)　三 木 (市)・町・村
	ア 高齢者施策　介護保険料引き下げの効果について
	（2） 三 重　都・道・府・(県)　伊 賀 (市)・町・村
	ア 中学校給食無償化の取組について
４ 視察結果等	別 紙

三鷹市議会
-6.1.25
第 1185 号
受付

別紙

1 兵庫県三木市　介護保険料引き下げの効果について

三木市の健康福祉部介護保険課課長をはじめ、保険給付係長、介護予防係長の３人の方にご対応していただきました。

初めに三木市の高齢者のおかれている現状などについてお話いただきました。日常生活圏域は、三木地区を中心とした旧市街地の西部圏域と農村地域の東部圏域、S40～50 年に開発された新興住宅地区の南部圏域の３つに区分され、市内には 13 か所のデイサービスセンター、７か所のリハビリ施設、特養は７か所、老健が 3 か所で、おおむね中学校区単位で市立のデイサービスセンターを設置しておられます。医療施設も公立の総合医療センターのほか、市内に民間の 6 病院、60 診療所が開設されています。

次に事前に提出した質問に回答していただき、質疑を行いました。

ア　全国 239 の自治体が第８期の介護保険料引き下げを行っており、三木市がその一つである。介護保険料を引き下げることができたのはなぜか。介護保険料引き下げの経緯について。

→　三木市の要介護認定率は、９年連続で県内の市で一番低い状況にあり、結果、介護保険にかかる費用が抑えられています。そのため、第 6 期、第 7 期の介護保険料は据え置いたのだが、介護保険の剰余金(基金)を活用して第 8 期の保険料を引き下げることとした。

イ　保険料引き下げを可能にした要因

→　平成 19 年から取り組んでいる通いの場を増やしてきたこと、理学療法士や保健師などの専門職を正職に採用し、通いの場の立ち上げなどでも活用してきたことが、高齢になっても介護状態にならないで元気で過ごす高齢者が多い理由ではないか。

ウ　介護保険料を引き下げたことによる市民の反応、声はどのようなものがあるか。

→　市民から喜ばれている。市としては、元気で住みよい街をアピールしているとのこと。

エ　どのような介護予防策に取り組んでいるのか。

→　訪問リハビリにも力を入れており、退院後のリハビリも病院との連携で充実しており、病院のドクターからの声掛けもしている。通いの場には、年齢制限をせず、気軽に参加できるようにしている。

通いの場の推進、地域リハビリテーション活動、介護予防の普及啓発及び活動支援などを実施しており、三木市が考案したみっきぃ★いきいき体操を自主教室でできるように支援し、継続にも力をいれていました。

オ　第９期の見通しについて

→　国の介護報酬の改定もあり、今度は上げざるを得ないとの事でした。

三木市の人口は 75,571 人。財政規模は 360.5 億円で、三鷹市の規模の約半分といったところです。高齢化率が 35.3%と高いにも関わらず、兵庫県内 29 市のうち要介護認定率は 18.4%と低く、元気な高齢者が多いため、介護保険料を第６期、第７期と据え置き、第８期で引き下げを行っています。みっきぃ★いきいき体操を中心としたフレイル予防・介護予防事業の強化が

効果をあげていることを知りました。平成１９年から取り組みをはじめて市内の 10 地区１１６か所で、月曜から土曜までの間にいきいき体操が取り組まれており、歩いて行けるところに週１～２回参加できるようになっています。市が正規の理学療法士を採用し、介護予防活動に従事するほか、市内の医療機関に勤務するリハビリ専門職やケアマネと積極的な連携を行っているそうです。三鷹市もうごこっと体操を取り組んでいますが、三木市のように浸透しているとは言えないと痛感しました。三木市では、みっきぃ★いきいき体操の立ち上げ・継続に力を入れていて、三鷹市でも大いに学ぶべきところだと思いました。今後の議会質問などで活かしていきます。

２　三重県伊賀市　中学校給食無償化の取組について

議会事務局長はじめ、教育委員会学校教育課長、学校教育課主幹の 3 人の方にご対応いただきました。

伊賀市では、食育の推進や保護者の子育て支援のより一層の具現化を図るため、令和 5 年度から市立小中学校給食費無償化に踏み出しました。家庭での食生活の充実に加えて、朝食欠食率の減少等を図り将来を担う子どもたちの健全な食生活に寄与するとしています。

事前に提出した質問に回答していただき、質疑を行いました。

ア　学校給食無償化に取り組んだ経緯

→　伊賀市は外国人の児童生徒も多く、その多くが非正規労働者とのことです。また、ひとり親家庭の貧困問題も課題としてあげられ、朝食欠食児童も多く存在しているそうです。伊賀市では、中学校での完全給食が実施されて 16 年が経過しました。しかし、全国学力・学習状況調査の生徒の質問紙の結果からは依然として朝食の欠食率が全国や県平均より高い状況にありました。コロナ禍の一部無償化は、家庭の経済支援を第一に考えて実施しましたが、今年度から始めた無償化は、食育の推進を第一に掲げており、学校給食費の負担がなくなった分を、家庭での朝食の充実にあててほしいというねらいで行っているそうです。

イ　保護者や市民の反応

→　保護者の方へ朝食をとれる環境をつくってもらうため、啓発として「朝ごはんを食べよう」というリーフレットを作成し全家庭へ配布しました。「リーフレットを見て、あらためて朝ごはんが大切だと気付いたので、朝ごはんの品数に気をつけたり、お味噌汁の具材を増やしたり意識するようになりました。」「朝食を充実させたおかげで、体調万全で登校することができたり、排便リズムが整ったりしてこれまでより健康に過ごせています。」「給食費が無償になった分、朝から魚や季節の果物を食べさせる回数が増えました。」などの声が寄せられていました。

ウ　教育・学びの視点からの無償化の取組についての効果

→　まだ始めたばかりではありますが、家庭でも食について話す機会が増えたり、実際に朝食を意識していただいたりした家庭が増えたことは成果の一つと捉えており、また、教職員の給食費徴収に関する業務がなくなったことは、教職員の働き方改革につながったとのことでした。

エ　無償化を継続するにあたっての課題

→　予算の確保が課題です。伊賀市では国や県の子育て支援の補助金とふるさと納税を活用して実施しており、継続して取り組んでいくためには予算を安定的に確保することができるかが課題だそうです。

オ　今後の見通し

→　「義務教育は無償」ということからすれば、学校給食無償化は正しい方向であるとの考えのもと、いま取り組んでいる「朝ごはんをパワーアップさせよう」の取組を進め、朝食欠食率をなくすことを目標に取組を進めていくそうです。

伊賀市の人口は 88,325 人。財政規模も人口も三鷹市のほぼ半分弱。学校給食無償化も３億円かかるのを、市長の「こどもファースト・子どもは伊賀の宝」という考えに議員も賛同し、学校給食無償化はいいことだが、財源をどうするかということで議論され、県の「みえ子ども・子育て応援総合補助金」やふるさと納税を活用することとなり実施に踏み切ったそうです。

単に給食の提供だけでなく、食育にも力を入れており、教育委員会のホームページに食育教材を載せるなどの取組もしています。農林課との連携で月２回、伊賀スマイルとして伊賀の食材を使ったメニューを提供。食べることは生きる上で基本であり、生涯にわたって必要な「食べる力」＝「生きる力」の土台となるため、学校だけでなく家庭、地域、社会などの様々な場で食育についての学びを身に付けていくものと考え、家庭での朝食の重要性をアピールしていました。「朝ごはんをパワーアップさせよう」と朝ごはんを食べようのパンフレットを作成し、簡単なレシピも掲載、朝ごはんを食べるとこんないいことがあるよと啓発、朝食欠食率をなくすことを目標に取り組んでいることは素晴らしいと思いました。

三鷹市でもぜひ、給食費無償化が実現できるように条例提案を含め、議会質問などで活かしたいと思います。